

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年9月9日～9月15日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年9月18日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼ジュネーブ会合の共同議長代表団が南オセチアとアブハジアを訪問(11日-13日)

- ・ルフォーール EU 南コーカサス特別代表、ツルネン国連ジュネーブ会合代表、デシツァ OSCE 議長国特別代表が次回の会合に向けた協議のため両地域を訪問。
- ・11日、南オセチアでジオエフ「大統領代表」と会談。
- ・13日、アブハジアでチリクバ「外務大臣」と会談。
- ・次回のジュネーブ会合は11月5日、6日の予定。

【アブハジア】

▼在アブハジア露「大使館」一等書記官・副領事が殺害される(9日)

- ・9日、ソフミでヴィシエルニョフ在アブハジア露「大使館」一等書記官・副領事の運転する車を何者かが銃撃。「ヴィ」一等書記官は死亡。同乗していた妻も重傷を負い、病院に搬送されたが14日に死亡。
- ・露外務省は事件について、「地域の安定とロシア・アブハジア間の友好的な関係を損なおうとする試みである」として非難する声明を発表。

【南オセチア】

▼サナコエフ・南オセチア「外務大臣」がイタリアを訪問(4日-6日)

- ・4日、「左翼エコロジー自由」党の副党首と会談。
- ・6日、ローマでスコット・イタリア国会外交委員会委員長と会談。

▼プーチン露大統領が南オセチアとの「国境」画定に係る合意への署名を指示(12日)

- ・13日、合意は国際的な規範に反するとして、グルジア外務省が露政府に抗議書簡を送付。

2. 外 政

▼タリンでイヴァニシヴィリ首相がアンシブ・エストニア首相と会談(9日)

- ・「ア」エストニア首相は、11月末のヴィリニウスでのEU首脳会議において、EU・グルジアの連合協定が仮調印されることをエストニアは支持しており、更に、「仮調印に続いて、現在の欧州委員会の任期内に実際に協定が発効することを望んでいる」と述べた。現在の欧州委員会の任期は2014年10月まで。「イ」首相は、「我々は4月、遅くとも5月には、協定に調印せねばならないと考えている」と発言。

▼改修されたカズベギの国境検問所がオープン(10

日)

- ・財務省によれば、検問所は900万ラリ以上をかけて約1年かがりで改修され、1日に処理できる人数が従来の5千人から1万3千人になった。
- ・内務省によれば、2013年1月～6月の通過者は329,601人で、その半数以上がロシア国民。
- ・開所式に出席したハドゥリ財務大臣は、「グルジアが東西のみならず、南北を繋ぐ回廊国でもあることは重要だ」と話した。
- ・ナルマニア地域発展・インフラ大臣は、グルジア・露国境の中立地帯の道路1.5kmがひどい状態であるため、補修プロジェクトに係る作業を開始したと述べた。

▼グルジアがシリア政府による化学兵器の使用を非難する共同声明に署名(10日)

- ・前週に米国など11カ国によって出された共同非難声明について、10日、米政府はグルジアを含む8カ国が新たに声明に署名したと発表。11日の時点で、声明に署名をした国は33カ国。

▼エレヴァンで行なわれた第3回東方パートナーシップ非公式対話にベトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣が出席(13日)

- ・12日、「ペ」国務大臣はナルバンジャン・アルメニア外務大臣と会談。「ナ」アルメニア外務大臣はロシアが主導する関税同盟へのアルメニアの加盟の意思を説明。両大臣はアルメニアの関税同盟加盟と、グルジア・EU間の「深化した包括的自由貿易圏」(DCFTA)が両国の二国間関係を妨げないことを確認。
- ・13日、非公式対話に出席したフューレ拡大・近隣政策担当欧州委員は「関税同盟とEUのDCFTAは両立しない」と発言。ロシアが主導するユーラシア経済連合の展開は、「東方パートナーシップ諸国の独立した決断を尊重しなければならない」として、「東方パートナーシップ諸国に対するロシアからのいかなる脅しや圧力も容認できない」と述べた。

- ・同13日、フューレ欧州委員はアルメニアのラジオのインタビューで、「EUは、11月のヴィリニウスでの東方パートナーシップ首脳会議でグルジアおよびモルドバとの連合協定に仮調印をした後、できるだけ早く署名できるよう最大限努力する」と述べた。

▼クラール元エストニア国防相顧問が新しいEUモニタリング・ミッション(EUMM)団長に任命される(13日)

- ・「ク」氏はエストニアの大統領外交政策顧問、外務省政治部長、国防相顧問、欧州委員会エストニア代表部長な

どを歴任。現在まで欧州対外活動庁 (EEAS) の人材政策・調整部長であった。

・8月にEUMMの活動期限は2014年12月14日まで延長された。現在、約200人の非武装の監視員がグルジア国内で活動している。

▼スイスとのビザ取得手続きの簡素化について合意(14日)

・スイス外務省によれば、2011年3月に発効したEU・グルジア間のビザ取得手続きの簡素化に係る合意に基づき、「さまざまなタイプのビザの申請者に対し、長期の複数回入国用ビザの発行手続きを簡素化するとともに、外交旅券を持つ政府関係者に対しビザ取得を免除する」。

3. 内 政

▼次の首相に関するイヴァニシヴィリ首相の発言(9日)

・ラジオのインタビューで、「次の首相に誰が就くかは、ほぼ決めているが、今後、内閣や議会の同意を得た上で公表する」と話した。

▼中央選挙委員会の委員長が決定(11日)

・タマル・ジヴァニア氏。「公正な選挙と民主主義のための国際社会」(ISFED)など11のNGOの推薦を受け、9日に他の2人の候補とともに大統領から指名された後、与党により任命された。任期は5年。

・2000年から2007年までISFEDで勤務し、2004年から2007年までは同団体の事務局長を務めた。以降、UNDPトビリシ事務所で選挙支援プロジェクトに携わっていた。バングラデシュ、ウクライナおよびカザフスタンで選挙コンサルタント、選挙監視員を務めた経験を持つ。

▼クタイシ市長が辞任(12日)

・6月のはじめにクタイシ市長に就任したディミトリ・コパリアニ氏が辞任を発表。過去10年間で10人目の市長であった。

・クタイシ、バトゥミ、ルスタヴィ、ポティの4市の市長は市議会が選出する。

▼メラシヴィリ前首相・「統一国民運動」事務局長とチアベラシヴィリ前保健大臣の予備審問が始まる(12日)

・クタイシ市裁判所で予備審問が開始され、「メ」前首相は5月22日に審理前勾留が決定されて以降、はじめて公に姿を現した。

・2012年に公金500万ラリを「統一国民運動」(UNM)の選挙活動に流用した疑い。両被告とも政治的な動機に基づいた起訴であるとして容疑を否定している。

・「メ」前首相はその他にも、2009年に内務大臣であったときの公金流用および2006年に起こったギルグヴリアニ氏の殺害事件を含む数件に関連しても起訴されている。

▼メスティア副町長が逮捕される(13日)

・ヘルギアニ副町長は30万ラリの賄賂を受け取った疑い。

4. 経 済

▼2013年上半期の外国からの直接投資額(9日)

・国家統計局の発表した速報値によれば458.6百万ドル。前年同期比4.2%減。

・2013年第2四半期の外国からの直接投資額は232.4百万ドル。前年同期比6.7%増。主な投資分野はエネルギー(66.3百万ドル)、製造業(59.1百万ドル)、交通・通信(46百万ドル)など。第2四半期について、国別の投資額ではルクセンブルクが最大(121.1百万ドル)。

▼8月の入国者数(11日)

・内務省によれば、2013年1月～8月の入国者数は3,568,518人(前年同期比26.4%増)。うち40%が旅行者。

・8月の入国者数は770,608人(前年同月比28.2%増)。入国元は多い順にトルコ、アゼルバイジャン、アルメニア、ロシア、ウクライナ。イランからの入国者は前年同月比41.2%減。

・ポーランド、チェコ、オーストリア、カザフスタン、ベラルーシからの入国者数の増加が著しい。

▼8月に国家対外債務が増加(13日)

・財務省の資料では、8月末の時点で国家対外債務は4,159百万ドル。7月末より11百万ドル増加。うち、政府の債務が3,955百万ドル、残りはグルジア国立銀行の債務。

4. その他

▼TV局、空港に対する爆弾予告電話(12日)

・12日、TV局「ルスタヴィ2」に爆弾を仕掛けた旨の通報があり、建物から全員が避難。その後、TV局「イメディ」に対しても同様の通報があった。爆弾は発見されず、通報主は拘束された。

・12日夜にはトビリシ国際空港に対しても爆弾予告電話があり、人々が一時避難。

・15日、「イメディ」および「ルスタヴィ2」に対して、またも爆弾予告電話があった

▼バトゥミ市内での発砲事件(13日)

・13日夜、バトゥミ市内で発砲事件があり、露国籍の男性1名とグルジア国籍の男性2名が逮捕された。露国籍の男性が身分証を確認しようとした警官に対して発砲し、それに対して警官も発砲。露国籍の男性と警官、通行人の3名が負傷した。

・露国籍の男性はチェチェン出身で、露当局がテロ組織との関係を疑っていた模様。グルジア内務省によれば、男性はグルジアに密入国しており、一緒にいたグルジア国籍の男性2名がトルコへの出国を助けていた。